

SYLLABUS (現代の国語)

単位数	2	履修学年	1 年	履修学科	普通科・工業科
使用教科書		新編現代の国語（東京書籍）			
学習の目標	実社会における国語による諸活動に必要な資質、能力を育てる。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」を通して、生きるための思考力、判断力、表現力を身に付ける。			授業の概要	評論文は、小・中学校で学習したことを踏まえて、より難易度の高い文章を読み取る力を身に付ける。言語活動では、書くこと、話すことに関して、表現の基礎的なことを学習する。日常生活の中で役に立つ表現を中心に学習する。
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
1 学期	「こそめスープ」「水の東西」 ○気になるニュースについて話す ○情報の内容の検討と意見文 ○分かりやすい説明 ○文章の読み比べ キーワード { 随想 評論 筆者の考え方 情報 整理 話す 聞く 書く 説明の目的 内容の整理 ロールプレー ブログの記事 公共の掲示物			〈読解〉 随想分野や易しい評論文の要旨を的確につかみ、筆者の思いや考え方を読み取ることで、自分を深く見つめる。 〈言語活動〉 伝えたい話題の情報を複数のメディアから収集し、構成を工夫して分かりやすく話す。 テーマに合わせて情報を集め、内容を検討する。根拠となる情報に基づき、説得力のある意見文を書く。 複数の文章の比較の仕方を理解する。図表や画像を読み取り、自分の考えを発表する。	
2 学期	「森で染める人」「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」 ○情報を整理しながら話す ○憧れの職業調べ ○発想を広げる方法 ○新聞記事と意見文 キーワード { 観察文 筆者の着眼や発想 新しい視点 自然や社会との関係 生きる意味 働く人の思い 自分の将来 職業の調べ方 ブレーンストーミング 記事			〈読解〉 評論文の読解を通して、論理的思考力や適切な表現力を身に付け、日頃の考え方を振り返り、新たな視点の参考に自身の考えを深める。 〈言語活動〉 グループに分かれ、質疑応答をしながら検討事項を整理し話し合う。 自分の希望に関する情報の取捨選択を適切に行い、人に伝えるための文章の書き方を習得する。ブレーンストーミングの方法を理解し、話の見通しをもつ。 新聞記事の内容を要約し、問題の本質を理解する。 意見文を書くための引用や出典の示し方を学ぶ。	
3 学期	「美しさの発見」「真の自立とは」 ○アドバイスを生かした紹介文 ○資料を活用した発表 キーワード { 抽象的な表現 論理的な展開 価値観 アンケート 紹介文 考察と推論 社会の未来 発表の形式 ポスターセッション			〈読解〉 芸術等の抽象的で本格的な評論を読み取り、提示された問題に自ら考える態度や習慣を身に付ける。 〈言語活動〉 情報の収集方法を考え、読み手が必要とする情報に応じて適切な紹介文を書く。 様々な情報の発信の仕方を理解し、グループごとに時間配分に沿って発表し、質疑応答を行う。	
評価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能		表現と理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識や技能を身に付けている。		・定期考査 ・授業中の諸活動 意見文 レポート 話し合い 発表 グループ活動
	思考・判断・表現		自分の考えを、目的に応じて筋道を立てて話したり的確に聞き取ったり適切に文章にしたりする。		
主体的に学習に取り組む態度		評論文や言語活動に関心をもち、自ら文章を読解したり自分の考えを表現したりしようとする。			
学習アドバイス	○授業の取組 読解分野は、中学校で身に付けた力に上乗せするつもりで言葉の意味をきちんとつかみ、文章を的確に読み取るようにしましょう。言語活動では、話すことや書くことに抵抗がある人が多いようですが、慣れることも上達の第一歩です。話すことや書くこと以外の様々な表現活動もしますが、とにかく表現してみることが大切です。 ○家庭学習（予習・復習） 語彙を豊富にすることが表現の上達につながります。日常生活において経験したことの中で、印象に残った事柄を、ノートなどに書くことを習慣にしておくと、作文や表現に取り組む時に題材探しに困らなくなるので、実践してみてください。				

SYLLABUS (言語文化)

単位数	2	履修学年	1 年	履修学科	普通科・工業科
使用教科書		新編言語文化（東京書籍）			
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を身に付ける。		授業の概要	現代文は、小・中学校で学習したことを踏まえてより難易度の高い文章を読み取る力を養う。古文・漢文は、基礎的な文法や句法を体系的に学びながら、文章に慣れる。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	現「さくらさくらさくら」「とんかつ」 古「児のそら寝」 漢「虎の威を借る」 キーワード { 随筆 説話、歴史的仮名遣い 故事成語、訓読、書き下し		現 引用歌や体験談に注意しながら、日本独特の桜に対する感性について理解を深める。 会話や行動の描写に着目して、登場人物の心情とその変化を読み取る。 古 歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取る。 漢 故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむ。		
2 学期	現「羅生門」 古「枕草子」「伊勢物語」 漢「漢詩」 キーワード { 小説、心情、客観的分析 随筆、助動詞他、歌物語・和歌 漢詩のきまり		現 極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題を考える。 古 作品の内容を自分と関係づけながら、ものの見方、感じ方、考え方を深める。 歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉える。 漢 漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。		
3 学期	現「夢十夜」 古「奥の細道」 漢「論語」 キーワード { 小説、心情、客観的分析 紀行文、俳諧 朗読、儒家の思想		現 表現に即して小説を丁寧に読み味わい、そこに展開する独自の世界を味わう。 古 構成に注目しながら、作品にこめられた思いを読み取る。 漢 孔子の学問・人間・政治に対する考え方を知り、孔子の思想に興味を持つとともに、ものの見方や考え方を豊かにする。		
評価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能	言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。我が国の言語文化に特徴的な語彙の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにしている。		・定期考査 ・授業中の諸活動 レポート 話し合い 発表 グループ活動	
	思考・判断・表現	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。			
	主体的に学習に取り組む態度	進んで現代の言語文化に息づいている古典の常識について理解し、学習課題に沿って、言語文化について普段どのように感じているか考え、発表しようとしている。			
学習アドバイス	○授業の取組 現代文は、中学校で付けた力に上乗せするつもりで言葉の意味をきちんとつかみ、文章を的確に読み取るようにしましょう。古文・漢文は高校で基本から学びますから、うまくスタートを切り、地道に努力することで少しずつ力を付けていきましょう。どの分野にも共通する大切なことは「読み」です。声を出して読むことが大変重要となりますので、大きな声で読んでください。 ○家庭学習（予習・復習） 現代文は、文章を読んだ後、語句の意味を調べます。古文・漢文は、本文をノートに写し（漢文は書き下し文を書き）、口語訳をします。最初はなかなかできないと思いますが、分からない部分を授業で埋めていくようにすれば、自分なりの達成感もあって、次から頑張ろうという気持ちになることができます。一番優先すべきなのは授業です。予習は授業を効率よく受けるための、復習は授業を確実に身に付けるための最低限の勉強だと思って、しっかりと取り組みましょう。				

SYLLABUS (論理国語)

単位数	2	履修学年	2 年	履修学科	普通科Ⅱ型(文系)A B・Ⅱ型(理系)C
使用教科書		高等学校 標準 論理国語 (第一学習社)			
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			授業の概要	評論文では、構成に沿って筆者の考えを適切に理解できるようにする。書いたり話したりすることで、問題解決への意識を高めるとともに、実践力を養う。
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
1 学期	新しい発見 「進化が導き出した答え」 「新しい地球観」 言葉と文化 「数え方で磨く日本語」 「名所絵はがきの東西」 生活の中の表現 「情けは人の……」			評論 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながらか要旨を把握する。	
2 学期	生活の中の表現 「犬も歩けば棒に当たる」 実用文 ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を検討する 人間と文化 「バラと通貨はどう違う？」 「ヒトはなぜヒトになったか」 実用文 法に関わる文章を読み比べる			評論 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 実用文 関連する文章を比較して読み、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。 実用文 二種類の実用的な文章を読み比べて必要な情報を読み取り、両者を関連づけて解釈する方法を学ぶ。	
3 学期	自己と社会 「共同性の幻想」 「鏡としての他者」 表現編 レポートを書く			評論 現代の人間関係のあり方について述べた文章の内容を基に、自分の考えを発表する。 表現 文章の構成や展開、表現のしかたなどについて、自分の考えが的確に伝わるように工夫する方法を学ぶ。	
評 価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。		・ 定期考査 ・ 授業中の諸活動 レポート 話し合い 発表 グループ活動
	思考・判断・表現		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		
	主体的に学習に取り組む態度		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。		
学習アドバイス	○授業の取組 これまで身に付けた力に上乗せするつもりで言葉の意味をきちんとつかみ、文章を的確に読み取るようにしましょう。大切なことは、やはり「読み」です。声を出して読むことが大変重要となりますので、初心に帰って大声で読んでみてください。また、板書されていることだけを機械的に写すばかりでなく、その都度自分が思ったことや感じたこと、読み取ったことを書いて深めておくと小論文の対策になります。 ○家庭学習（予習・復習） 語句の意味調べや漢字の読み書きの学習に力を入れましょう。言葉の学習には時間がかかり、家庭学習で根気よく取り組まなければ成果が上がりません。また、語彙力や表現力を身に付けるためには、多くの文章に触れなければなりません。積極的に本や新聞などを読みましょう。これらの学習は、将来必ず自分のためになるので、しっかり取り組みましょう。				

SYLLABUS (論理国語)

単位数	3	履修学年	3 年	履修学科	普通科Ⅱ型(文系)A B・Ⅱ型(理系)C
使用教科書		高等学校 標準 論理国語 (第一学習社)			
学習の目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。			授業の概要	評論文では、構成に沿って筆者の考えを適切に理解できるようにする。書いたり話したりすることで、問題解決への意識を高めるとともに、実践力を養う。
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
1 学期	新しい視点 「新しい博物学を」 「哲学的思考とは何か」 人間と社会 「SNSと意見の分極化」 「コミュニケーションの文化」 表現編 小論文を書く 論理研究 「推論とは何か」			評論 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 表現 文章の構成や展開、表現のしかたなどについて、自分の考えが的確に伝わるように工夫する方法を学ぶ。	
2 学期	生活と自然 「クマを変えてしまう人間」 「カブトムシから考える里山と物質循環」 生への思索 「経験の教えについて」 「僕らの時代のメディア・リテラシー」			評論 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 関連するテーマの文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈する。 社会的な話題について書かれた文章を読み、自分の考えをまとめる方法を学ぶ。	
3 学期	現代と社会 「支え合うことの意味」 「科学技術は暴走しているのか」			評論 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 文章の内容を基に、自分の考えを論述したり、発表したりする方法を学ぶ。	
評価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。		・定期考査
	思考・判断・表現		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。		・授業中の諸活動 レポート 話し合い 発表 グループ活動
	主体的に学習に取り組む態度		言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。		
学習アドバイス	○授業の取組 これまで積み重ねてきた言葉の力をさらに向上させるために、言葉の意味をきちんとつかみ、文章を的確に読み取るようにしましょう。大切なことは、やはり「読み」です。声を出して読み、大切な部分は線を引いて、要旨をすばやくつかむこと。また、その都度自分が思ったことや感じたこと、読み取ったことを書いて深めておくこと小論文の対策になります。様々な文章を読んでいきましょう。 ○家庭学習（予習・復習） 語句の意味調べや漢字の読み書きの学習は積極的に取り組みましょう。言葉の学習には時間がかかります。また、語彙力や表現力を身に付けるためには、多くの文章に触れなければなりません。毎日、少しでもいいので本や新聞などを読みましょう。これらの学習は、将来必ず自分を成長させるものになります。「継続は力なり」です。				

SYLLABUS (文学国語)

単位数	2	履修学年	2年	履修学科	普通科Ⅰ型・工業科
使用教科書		新編 文学国語 (大修館書店)			
学習の目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を伸ばす。			授業の概要	「言語文化」の学習内容を踏まえ、文学的な文章に親しみ、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養うとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
一学期	1 明日をひらく「そとみとなかみ」 2 小説を楽しむ「ナイン」 古典の世界1「児の飴を食ひたること」 3 詩を味わう「小景異情」「コスモス」			随筆 文章読解の基本的な手法を習得する。筆者独自の考え方を読み取り、各自が持つ意識の違いを感じ取る。 小説 著名な作家の作品を読むことで、関心を広げ、読書活動を活発にする。 説話 古文で書かれた話の面白さと教訓を読み取る。	
二学期	4 名作を読む(一)「山月記」 古典の世界2「かぐや姫の昇天」 5 社会に生きる「神去なあなあ日常」			小説 著名な作家の作品を読むことで、関心を広げ、読書活動を活発にする。時代背景や虚構性に注意して小説を読み、描かれた世界を的確に捉える。小説を読んで感じたこと考えたことを伝え合うことで、理解を深める。 説話 登場人物の言動を通して、古人のものの見方や考え方を学ぶ。	
三学期	6 表現を味わう「柿」 古典の世界3「行く河の流れ」 恋のうた 読書の広場			小説 表現に注意して読み進め、提示された問題を的確に把握する。文章構成に注意して、筆者の考えを理解し、安心というものの本質について考える。 随筆 作品に表れている作者の考え方をとらえる。	
評価	観 点	評価の観点の趣旨			評価項目
	知識・技能	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。			・ 定期考査
	思考・判断・表現	「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。			・ 授業中の諸活動 レポート 話し合い 発表 グループ活動
学習アドバイス	主体的に学習に取り組む態度	作品に興味を持ち、自分と比較しながら作者の感性をとらえようとしている。			
	○授業の取組 表現や理解の基礎となる語句・漢字の読み書きについて、しっかり学びましょう。本文をよく読み、構成・読解・表現などの学習を通して、書かれてある内容を理解しましょう。その中で、様々な事柄に対して問題意識を持ったり、自分の考えを深めたりすることも大切です。さらに、意見発表や文章を書くなどの表現活動を積極的に行い、自分の考えを正確に相手に伝えられる力を養いましょう。理解し、考え、表現することが学習の大きな流れです ○家庭学習（予習・復習） 語句の意味調べや漢字の読み書きの学習に力を入れましょう。言葉の学習には時間がかかり、家庭学習で根気よく取り組まなければ成果が上がりません。また、語彙力や表現力を身に付けるためには、多くの文章に触れなければなりません。積極的に本や新聞などを読みましょう。これらの学習は、将来必ず自分のためになります。しっかり取り組みましょう。				

SYLLABUS (文学国語)

単位数	2	履修学年	2年	履修学科	普通科・Ⅱ型(文系)A・B
使用教科書		高等学校 標準 文学国語 (第一学習社)			
学習の目標	近代以降の様々な文章等を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、深く共感したり豊かに想像したりする力や、創造的に考える力を養う。			授業の概要	高校1年の言語文化で学習したことを踏まえ、より難易度の高い文学作品を読むことで筆者の考えや登場人物の心理を読み取ると同時に自分の考えを明確に持ち、それを自分の言葉で適切に表現できるようにする。
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
1学期	現代の小説「調律師のるみ子さん」 「ナイン」「相棒」 現代の詩「生命は」 「そこにひとつの席が」 (キーワード) 人間の心理、葛藤と自立、思い込み、他者との関わり、理想的な人間社会、時代背景、価値観			小説	登場人物の心の動きを場面に即して深く読み取るとともに、人間の意図が人間の相互関係の中で被る変化を知り、人生についての見方を深める。
				詩	描かれた情景を思い描きながら、作者の思いや価値観を読み取る。
2学期	近代の小説「山月記」「鼻」 随想「花のいざない」 (キーワード) 時代背景、登場人物の心理、想像力、感受性、古典文学との関係、比喻、抽象的な表現、古典芸能と芸術			小説	登場人物の心の動きを場面に即して深く読み取る。著名な作家の作品を読むことで、関心を広げ、読書活動を活発にする。時代背景や虚構性に注意して小説を読み、描かれた世界を的確に捉える。小説を読んで感じたことや考えたことを伝え合うことで、理解を深める。
				随想	文章を構成した筆者の意図を読み取りながら、登場人物の心情を適切に読み取る。
3学期	戦争と文学 「バグダッドの靴磨き」 「わたしが一番きれいだったとき」 「死んだ男の残したものは」 (キーワード) 気持ちの変化、葛藤と自立、共感力、戦後、創作理由、平和への願い			小説	登場人物の心の動きを場面に即して深く読み取る。一人一人の人間にとって、戦争の中を生きるとはどういうことか想像する力を身に付ける。
				詩	描かれた情景を思い描きながら、作者の平和への思いを読み取り、共感する姿勢を養う。
評価	観 点	評価の観点の趣旨			評価項目
	知識・技能	文学的な文章における文体の特徴や表現の技法について理解を深め、語彙を豊かにする。			・定期考査 ・授業中の諸活動 小テスト ノート 課題 発表
	思考・判断・表現	内容や構成、展開、場面設定や描写のしかた、表現の特色などを的確に捉え、内容の解釈を深めたり、自分の言葉で表現したりする姿勢を養う。			
主体的に学習に取り組む態度	どの分野の文章にも関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。				
学習アドバイス	○授業の取組 中学校・高校1年でつけた力に上乗せするつもりで言葉の意味をきちんとつかみ、文章を的確に読み取るようにしましょう。大切なことは、やはり「読み」です。声を出して読むことが大変重要となりますので、初心に帰って大声で読んでみてください。また、板書されていることだけを機械的に写すばかりでなく、その都度自分が思ったことや感じたこと、読み取ったことを書いておくとおもしろいノートになるでしょう。				
	○家庭学習（予習・復習） 現代や近代の小説等の文章は、日常使っている言葉で書かれているので誰にでも読めるように思いがちです。しかし、意外と意味の分かりにくい言葉は多いものです。そこで、文章を読んだ後すぐに分からない語の意味を調べるようにします。その次に、接続詞や指示語などに注意しながら著者が何を言いたくてこの文章を書いたのかということを考えながら読むようにするといいいでしょう。一番優先すべきなのは授業です。予習は授業を効率よく受けるための、復習は授業を確実に身に付けるための最低限の勉強だと思って、しっかりと取り組みましょう。				

SYLLABUS (文学国語)

単位数	2	履修学年	3 年	履修学科	普通科 I 型・工業科
使用教科書		新編 文学国語（大修館書店）			
学習の目標	文学的な文章に親しみ、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養うとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。		授業の概要	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	1 飛ぶことを知っている魂 2 桐壺 3 待合室 4 若紫		随筆 文章読解の基本的な手法を習得する。筆者の考え方を読み取り、各自が持つ意識の違いを感じ取る。 小説 著名な作家の作品を読むことで、関心を広げ、読書活動を活発にする。 物語(古文) 登場人物の関係を把握し、話の展開を理解して、人物の心情を読み取る。		
2 学期	5 共感と驚異 6 俳句 7 能登殿最後 8 山椒魚		随筆 筆者の考える、短歌が人を感動させるための方法を読み取る。 俳句 研ぎ澄まされた短い言葉に凝縮された心情や情景を味わい、自分でも創作活動を行う。 物語(古文) 人物の心情を理解し、その描かれ方を捉え、読みを深める。「平曲」として語られてきた印象的な文体を味わう。 小説 著名な作家の作品を読むことで、関心を広げ、読書活動を活発にする。時代背景や虚構性に注意して小説を読み、描かれた世界を的確に捉える。小説を読んで感じたこと考えたことを伝え合うことで、理解を深める。		
3 学期	9 四面楚歌 10 こころ		歴史書(漢文) 漢文の表現に着目し、話の展開を理解するとともに人物の心情を読み取る。また、故事成語の意味を確認する。 小説 人物関係を把握し、心情を理解する。文豪夏目漱石の名作を読むことで、文体の特徴や作品に込められた思いについて自分の考えを深める。		
評価	観 点	評価の観点の趣旨			評価項目
	知識・技能	文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。			・定期考査 ・授業中の諸活動 レポート 話合い 発表 グループ活動
	思考・判断・表現	「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。			
主体的に学習に取り組む態度	作品に興味を持ち、自分と比較しながら作者の感性をとらえようとしている。				
学習アドバイス	○授業の取組 表現や理解の基礎となる語句・漢字の読み書きについて、しっかり学びましょう。本文をよく読み、構成・読解・表現などの学習を通して、書かれてある内容を理解しましょう。その中で、様々な事柄に対して問題意識を持ったり、自分の考えを深めたりすることも大切です。さらに、意見発表や文章を書くなどの表現活動を積極的に行い、自分の考えを正確に相手に伝えられる力を養いましょう。理解し、考えて表現することが学習の大きな流れです。 ○家庭学習（予習・復習） 語句の意味調べや漢字の読み書きの学習に力を入れましょう。言葉の学習には時間がかかり、家庭学習で根気よく取り組まなければ成果が上がりません。また、語彙力や表現力を身に付けるためには、多くの文章に触れなければなりません。積極的に本や新聞などを読みましょう。これらの学習は、将来必ず自分のためになります。しっかり取り組みましょう。				

SYLLABUS (文学国語)

単位数	3	履修学年	3 年	履修学科	普通科・Ⅱ型(文系) A・B
使用教科書 高等学校 標準 文学国語 (第一学習社)					
学習の目標	近代以降の様々な文章等を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、深く共感したり豊かに想像したりする力や、創造的に考える力を養う。			授業の概要	より難易度の高い文学作品を読むことで筆者の考えや登場人物の心理を読み取ると同時に自分の考えを明確に持ち、それを自分の言葉で適切に表現できるようにする。
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
1 学期	現代の小説「旅する本」 「ひよこの眼」 現代の詩「食事」 近代の詩「永訣の朝」 創作 〈キーワード〉 人間の心理、葛藤と自立、思い込み、他者との関わり、理想的な人間社会、時代背景、価値観			小説 内容や構成、展開、表現の特色を的確に捉え、多様な解釈を考察するとともに、人間、社会などに対するものの見方、感じ方を深める。 詩 描かれた情景を思い描きながら、作者の思いや価値観を読み取る。	
2 学期	近代の小説「ころも」 近代の詩「汚れちまった悲しみに」 〈キーワード〉 時代背景、登場人物の心理、想像力、感受性、比喩、抽象的な表現			小説 登場人物の心の動きを場面に即して深く読み取る。著名な作家の作品を読むことで、関心を広げ、読書活動を活発にする。時代背景や虚構性に注意して小説を読み、描かれた世界を的確に捉える。小説を読んで感じたことや考えたことを伝え合うことで、理解を深める。 詩 表現の特色を捉え、登場人物の心情を適切に読み取る。	
3 学期	近代の小説 「清兵衛と瓢箪」 〈キーワード〉 気持ちの変化、価値判断、評価			小説 登場人物の心の動きを場面に即して深く読み取るとともに、大人と子供の価値判断の違いについて考えを深める。	
評価	観 点	評価の観点の趣旨			評価項目
	知識・技能	文学的な文章における文体の特徴や表現の技法について理解を深め、語彙を豊かにする。			・定期考査 ・授業中の諸活動 小テスト ノート 課題 発表
	思考・判断・表現	内容や構成、展開、場面設定や描写のしかた、表現の特色などを的確に捉え、内容の解釈を深めたり、自分の言葉で表現したりする姿勢を養う。			
主体的に学習に取り組む態度	どの分野の文章にも関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。				
学習アドバイス	○授業の取組 高校2年でつけた力に上乗せするつもりで言葉の意味をきちんとつかみ、文章を的確に読み取るようにしましょう。大切なことは、やはり「読み」です。声を出して読むことが大変重要となりますので、初心に帰って大声で読んでみてください。また、板書されていることだけを機械的に写すばかりでなく、その都度自分が思ったことや感じたこと、読み取ったことを書いておくとおもしろいノートになるでしょう。 ○家庭学習（予習・復習） 現代や近代の小説等の文章は、日常使っている言葉で書かれているので誰にでも読めるように思いがちです。しかし、意外と意味の分かりにくい言葉は多いものです。そこで、文章を読んだ後すぐに分からない語の意味を調べるようにします。その次に、接続詞や指示語などに注意しながら著者が何を言いたくてこの文章を書いたのかということを考えながら読むようにするといいでしょう。一番優先すべきなのは授業です。予習は授業を効率よく受けるための、復習は授業を確実に身に付けるための最低限の勉強だと思って、しっかりと取り組みましょう。				

SYLLABUS (国語表現)

単位数	2	履修学年	2 年	履修学科	普通科 I 型
使用教科書		国語表現改訂版（大修館書店）			
学習の目標	国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。		授業の概要	国語表現は、書くこと、話すことに関して、表現の基礎的なことを学習する。日常生活の中で役に立つ表現を中心に学習する。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	表現力を培う ○言葉と出会う 表現への扉 表現を楽しむ 〈キーワード〉 相手に応じた言葉遣い、言葉と表記 わかりやすい文、身近な言葉		文章を書く前の手順や分かりやすい表現方法について理解し、実践する。 表現の基本的な学習として、分かりやすい表現のための基礎的な事項を理解し、実践する。 生き生きとした表現にするため、表現技巧と表現効果について理解し、実践する。		
2 学期	○メディアを駆使する 表現への扉 表現を楽しむ 〈キーワード〉 手紙、電子メール、電話 インターネット、ネット社会 ネットを活用した情報収集 インタビュー、句の創作		手紙とメールの長所を考え、心のこもった手紙を書く態度を身に付ける。手紙の価値と必要性・形式を理解し、用途に応じた適切な通信文が書けるようにする。 社会人のマナーとして電話対応の仕方を学び、実践力を身に付ける。 創作した句で句会を行い、表現力を身に付ける。		
3 学期	○伝える、伝え合う 表現への扉 表現を楽しむ 〈キーワード〉 自己紹介、絵や写真を見て書く 言葉のストレッチ体操、伝え合い マイニュース記事を書く		状況や場面に応じた声の出し方など、コミュニケーションの楽しさを感じ、実践する。 相手の思いをしっかり受け止めて熱心に聞く傾聴の姿勢を磨く。 読む人の立場に立って、確実に伝えたいことが伝わるように書く力を養う。		
評 価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能	表現と理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。		・ 定期考査 ・ 授業中の諸活動 作文 発表	
	思考・判断・表現	自分の意見や考えを、目的や場面に応じて筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりする。また、考えを、相手や目的に応じて適切に文章にする。			
	主体的に学習に取り組む態度	授業中に取り組む様々な活動に対して、関心を持ち、粘り強く意欲的に学習に取り組もうとする。			
学習アドバイス	○授業の取組 国語表現は表現に関する基本的なことを学習します。話すことや書くことに抵抗がある人が多いようですが、慣れることも上達の第一歩です。話すことや書くこと以外の様々な表現活動もありますが、とにかく表現してみることが大切です。 ○家庭学習（予習・復習） 漢字を覚えて正しく使えるようになったり、辞書を活用して、言葉の意味や使い方を覚えたりすることにより、語彙を豊富にすることが表現の上達につながります。また、日常生活において経験したことの中で、印象に残った事柄を、ノートなどに書くことを習慣にしておくと、作文や表現に取り組む時に題材探しに困らなくなるので、実践してみてください。				

SYLLABUS (国語表現)

単位数	2	履修学年	3 年	履修学科	普通科Ⅰ型
使用教科書		国語表現改訂版（大修館書店）			
学習の目標	国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。		授業の概要	国語表現は、書くこと、話すことに関して、表現の基礎的なことを学習する。日常生活の中で役に立つ表現を中心に学習する。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	表現力を培う ○自己PRと面接 表現への扉 表現を楽しむ 〈キーワード〉 自分を見つめる、表現の工夫 将来の自分、志望動機		過去や現在をしっかりと見つめ、自分はどんな人間なのか考える。 自分の魅力や特徴をわかりやすく印象的に伝える。 志望先についての情報を収集し、効果的に構成して説得力のある志望動機をまとめる。 建設的な議論の進め方を思い出し、グループディスカッションによって問題解決策を見付ける。		
2 学期	○小論文・レポート入門 表現への扉 表現を楽しむ 〈キーワード〉 理由と根拠、構成、反論、要旨 要約、資料、発想、調査		小論文の書き方の学習を通して、自分で考えること、意見を持つことの重要性を考える。 日々の生活の中で、様々な課題や問題、ニュースや出来事に関心を持ち、自分の主張や意見を持つ。 流行語や若者言葉を取り上げ、新しい意味や価値を表現して国語辞典に追加する。		
3 学期	○会話・議論・発表 表現への扉 表現を楽しむ 〈キーワード〉 適切な言葉遣い、建設的な議論 プレゼンテーション		自分の考えをまとめ、発表する力を身に付ける。テーマに基づき、様々な形式に則って話し合いを行う。 発表や話し合いを通して、自分の意見や主張のあり方を見直しつつ、他者の意見に耳を傾ける態度を身に付ける。		
評価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能	表現と理解のための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。		・定期考査 ・授業中の諸活動 志望理由書 小論文 発表	
	思考・判断・表現	自分の意見や考えを、目的や場面に応じて筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりする。また、考えを、相手や目的に応じて適切に文章にする。			
	主体的に学習に取り組む態度	授業中に取り組む様々な活動に対して、関心を持ち、粘り強く意欲的に学習に取り組もうとする。			
学習アドバイス	○授業の取組 国語表現は表現に関する基本的なことを学習します。話すことや書くことに抵抗がある人が多いようですが、慣れることも上達の第一歩です。話すことや書くこと以外の様々な表現活動もありますが、とにかく表現してみることが大切です。 ○家庭学習（予習・復習） 漢字を覚えて正しく使えるようになったり、辞書を活用して、言葉の意味や使い方を覚えたりすることにより、語彙を豊富にすることが表現の上達につながります。また、日常生活において経験したことの中で、印象に残った事柄を、ノートなどに書くことを習慣にしておくと、作文や表現に取り組む時に題材探しに困らなくなるので、実践してみてください。				

SYLLABUS (古典探究)

単位数	2	履修学年	2 年	履修学科	普通科Ⅱ型(文系) A B
使用教科書	新編 古典探究 (東京書籍)				
学習の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。		授業の概要	言語文化の古文・漢文で学習したことを踏まえて、より難易度の高い文章を読み取る力を養う。基礎的な文法や句法を正確に身に付け、それを踏まえて全体を見通し、内容を深く理解しながら、古典に慣れる。	
学 習 計 画					
	項目及び内容		到達目標及び学習のポイント		
1 学期	古『宇治拾遺物語』『竹取物語』『徒然草』『百人一首』 漢「故事成語」「漢詩」 〈キーワード〉 説話、物語の展開 随筆、筆者の視点 和歌の修辞技巧 訓読の基礎、句型 漢詩の形式・きまり		説話 登場人物の言動を通して、古人のものの見方や考え方を学ぶ。 物語 物語の展開を踏まえて、登場人物の思いを読み取る。 随筆 作者のものの見方、感じ方を理解し、古典の普遍性に気付き、人生観を深める糧とする。 故事成語 比較的短い文章に込められた教訓や思いを読み取り、漢文への興味・関心を深める。 和歌 和歌に込められた作者の思いを読み味わう。 漢詩 漢詩のきまりを踏まえて、内容を理解し、作者の心情を考える。		
2 学期	古『更級日記』『平家物語』 漢『史記』 〈キーワード〉 日記、軍記物語 心情の把握、読み比べ 紀伝体と編年体、句型の整理		物語 物語の展開を踏まえて、登場人物の思いを読み取る。 日記 日記文学の特徴に触れながら、内容を理解し、作者の心情を読み取る。 史記 史記を読みながら、項羽と劉邦を中心とした多彩な登場人物の描写を味わうとともに、司馬遷の人間に対する観察眼、洞察力に触れる。		
3 学期	古『世間胸算用』 漢「寓話五編』『十八史略』 〈キーワード〉 町人物 人心の機微 近世 比喩の巧みさ、中国の思想 三国志		小説 近世独特の文章表現とともに、人間の心の機微を読み味わう。 寓話 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、それぞれの寓話が持つ鋭い人間観や洞察力を味わう。 歴史書 登場人物の行動や心情を考察するとともに、三国志の世界を読み味わう。		
評価	観 点		評価の観点の趣旨		評価項目
	知識・技能	古典の世界を理解するための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。先人のものの見方、感じ方、考え方に親しんでいる。		・ 定期考査 ・ 授業中の諸活動 小テスト ノート 課題 発表	
	思考・判断・表現	古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。古典作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。			
	主体的に学習に取り組む態度	古文、漢文の様々な文章や作品に関心を持ち、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。意欲的に学習に取り組み、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。			
学習アドバイス	○授業の取組 古文、漢文ともに、様々な文章や作品を読みながら、基本的な語句の意味、文法、古典常識等を学びます。そして、その知識を踏まえて文を分析し、全体を見通し、内容を深く理解していきます。古典は慣れ、習うことが大切です。古語や漢字を何度も辞書を引いて調べたり、古文や漢文の文体を味わいながら、繰り返し声に出して読んだり、古典に表れた人間、社会、自然等に対する思想や感情に共感したりなどして、古典に学び、慣れましょう。 ○家庭学習 (予習・復習) 必ず本文をノートに写し、現代語訳をすること。その際、辞書を何度も引くように。また、10回以上は声に出して本文を読むこと。基礎的な知識を身に付けるには、特別な才能はいりません。意識と反復、ただこれのみです。一番優先すべきなのは授業ですから、予習は授業を効率よく受けるための、復習は授業を確実に身に付けるための、最低限の勉強だと思ってしっかりと取り組みましょう。				

SYLLABUS (古典探究)

単位数	2	履修学年	3 年	履修学科	普通科Ⅱ型(文系)A B
使用教科書	新編 古典探究 (東京書籍)				
学習の目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。		授業の概要	2 年次の古文・漢文で学習したことを踏まえて、より難易度の高い文章を読み取る力を養う。基礎的な文法や句法を正確に身に付け、それを踏まえて全体を見通し、内容を深く理解しながら、古典に慣れる。	
学 習 計 画					
	項目及び内容			到達目標及び学習のポイント	
1 学期	古『枕草子』『伊勢物語』『大鏡』 漢『十八史略』『漢詩』 〈キーワード〉 物語の展開 随筆、歌物語、歴史物語 筆者の視点 訓読の基礎、故事成語 句型 漢詩の形式・きまり			随筆 作者のものの見方、感じ方を理解し、古典の普遍性に気付き、人生観を深める糧とする。 物語 物語の展開を踏まえて、登場人物の思いを読み取る。 故事成語 比較的短い文章に込められた教訓や思いを読み取り、漢文への興味・関心を深める。 漢詩 漢詩のきまりを踏まえて、内容を理解し、作者の心情を考える。	
2 学期	古『古今和歌集仮名序』『源氏物語』 漢『史記』 〈キーワード〉 歌論、作り物語 心情の把握、読み比べ 紀伝体と編年体、句型の整理			歌論 歌論に述べられたものの見方、感じ方、考え方を踏まえて、考えを深める。 物語 物語の展開を踏まえて、登場人物の思いを読み取る。 史記 史記を読みながら、廉頗と藺相如を中心とした登場人物の描写を味わうとともに、司馬遷の人間に対する観察眼、洞察力に触れる。	
3 学期	古『去来抄』 〈キーワード〉 俳句、俳論			俳諧 俳句に詠み込まれた情景や心情を捉え、作者の思いを考える。また、俳論を読み、論旨を的確に読み取る。	
評価	観 点	評価の観点の趣旨			評価項目
	知識・技能	古典の世界を理解するための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。先人のものの見方、感じ方、考え方に親しんでいる。			定期考査
	思考・判断・表現	古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。古典作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりしている。			授業中の諸活動 小テスト ノート
	主体的に学習に取り組む態度	古文、漢文の様々な文章や作品に関心を持ち、言葉がもつ価値への認識を深めようとしている。意欲的に学習に取り組み、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。			課題発表
学習アドバイス	○授業の取組 古文、漢文ともに、様々な文章や作品を読みながら、基本的な語句の意味、文法、古典常識等を学びます。そして、その知識を踏まえて文を分析し、全体を見通し、内容を深く理解していきます。古典は慣れ、習うことが大切です。古語や漢字を何度も辞書を引いて調べたり、古文や漢文の文体を味わいながら、繰り返し声に出して読んだり、古典に表れた人間、社会、自然等に対する思想や感情に共感したりなどして、古典に学び、慣れましょう。				
	○家庭学習（予習・復習） 必ず本文をノートに写し、辞書を何度も引いて現代語訳をすること。また、10 回以上は声に出して本文を読むこと。予習は授業を効率よく受けるための、復習は授業を確実に身に付けるための勉強です。先人たちが残してくれた知恵や今につながる言葉がたくさん詰まっている古典の世界。じっくり味わいつつ、楽しんで勉強してみてください。				